



城西国際大学の6年制薬学教育



「遠くの大病院より、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

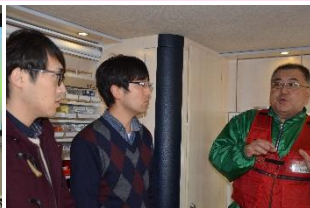
従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。

携帯サイトへ！



地域医療特論演習 特別授業:宮城県薬剤師会の取組み

モバイルファーマシーで有名な宮城県薬剤師会から、佐々木孝雄 会長と山田卓郎 副会長にお越し頂き、「セルフメディケーションと薬剤師」、「モバイルファーマシー導入の背景」、「熊本地震活動報告」についてご講演いただきました。学生たちはモバイルファーマシーに実車し、車体や薬局の装備を実体験しました。



モバイルファーマシー

薬局機能を搭載した機動力のある災害対策医薬品供給車両。東日本大震災の後、被災地での医薬品供給体制の維持を目的として開発された（宮城県薬剤師会）。ライフラインが寸断され、薬局も機能を停止して医薬品の供給体制が滞るような大規模災害に見舞われた被災地に出動して、医療用医薬品を必要とする被災者の方々に、自立的に災害対策用の医薬品を調剤して提供することが可能。車両は居住性を備えており、調剤に必要な電子天秤や自動分注機、水調剤台、コンピュータ及びこれらに電源を供給するバッテリーや発電機などを搭載（電源設備）

宮城県薬剤師会・被災地医療修学ツアー

2017年2月2日、宮城県薬剤師会・被災地医療修学ツアーが開催され、本学薬学部から5名の学生が参加しました。東日本大震災からまもなく6年が経過しようとしている中で、被災地の地域医療を担っている薬剤師が発災直後からどのような活動を行ってきたのかについて学び、津波に襲われた現実や復旧・復興の実際を目の当たりにしました。



JIU薬学部 新カリキュラム 2年生:地域連携論演習

この授業では、「地域生活者の健康支援ができる薬剤師」になることを目指します。「地域の実情を知り、地域に適った健康支援計画を作成する」ことを目的に、一人ひとりが考え、そして仲間と一緒に計画を作り上げていきます。



自分で調べる！

仲間と討議！

最後は発表！

行政の方にも話を伺おう！

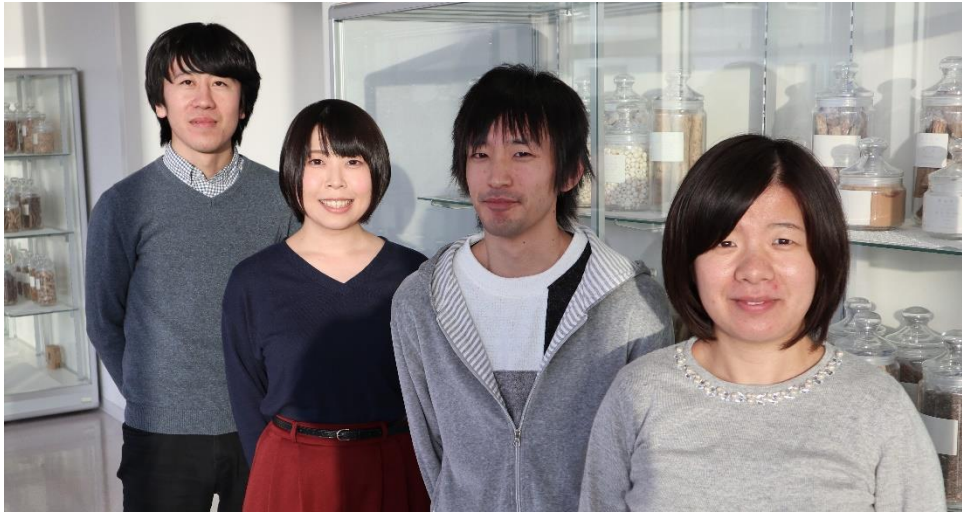
2017年度生 募集

大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程

城西国際大学 入試・広報センター

TEL: 0475-55-8855 E-mail: admis@jiu.ac.jp <http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>

そこにある問題に気付く感性と、必要な備え



地域医療特論演習「宮城県薬剤師会の取り組み」は、いかがでしたか？

（権藤）この授業では、「セルフメディケーション」、「モバイルファーマシー」、「震災の活動報告」について宮城県薬剤師会の方々からご講演いただいたんですけど…、その中でも「震災」のことが印象に残ったな〜。

（丸山）権藤くんは、予習して授業に臨んでいたよね。どうしてそんなに熱心だったの？

（権藤）僕は、福岡県出身なんだけど…、東日本大震災の時も福岡にいたので、ほとんど揺れなくて…。テレビで数多くの報道を見たけど、ずっと遠い場所の出来事だと思ってたんだ。でも、大学進学で千葉県に来てからは、千葉県も被害を受けた場所があることを知ったし…、余震を経験することで、「他人事ではない」と感じるようになったんだ。

（丸山）なるほど。私は、モバイルファーマシーが印象に残ったな。災害対策といえば「備蓄」のイメージがあったので、災害時に「調剤する場所」が必要となることは考えつかなかったな。これは、災害を経験した方々だからこそ、辿り着いたアイディアだと思うよ。

（天生目）経験したことで得られる知見…、やっぱり経験者から直接伺う話は、テレビや本では感じられない「何か」があるよね。僕が印象に残ったのは、薬剤師に求められる能力として、「ある人が問題と認識しなければその人にとって問題は存在しない」、つまり「問題認識能力」が重要という話だね。これは、大学での勉強や研究に対しても同じことが言えると思うよ。

（山本）たしかに…、問題を認識できるってことは重要だね。今回紹介していただいたモバイルファーマシーは震災時活動という経験を通じて開発されたと同ったけど、東日本の前にだって災害はあったし…、でも、東日本の後にできたってことは、誰かがそこに「問題意識」を持って…、だからこのモバイルファーマシーが完成したんだよね。

（天生目）そうだね。被災地では、きっと自己完結型の支援が重要で、薬剤師による被災地活動として、すごく大きな一歩を踏み出したって感じがするよね。

災害に対する備えについて、普段から行なっていることはありますか？

（天生目）東日本大震災の時はまだ高校生で、学校の試験期間中だったから、家で勉強していました。千葉県にいたんですけど、かなり揺れたので驚いて家の外に出たのを覚えています。それまでは、特に対策していなかったけど、危機感のようなものが心のどこかに生まれて…、家族で話し合ってた近くの中学校を緊急時の共通避難場所にすることにしました。

（山本）私も同じ！家族で、緊急時の避難場所が地域の何処にあるのか調べてみました。避難場所とか、連絡方法とか…、その時初めてきちんと話し合った気がします。

（丸山）私が生まれ育った静岡県は、地震が起きる可能性が高いつつと言われていて…、小学校の頃から防災意識が高く、避難訓練もかなり熱心に行われていたから、地震には敏感で…、実家にいるときは、寝室に防災ヘルメットと避難用の靴を必ず置いていました。

（権藤）ヘルメットと靴…、大事なことでなかなかそこまではできないな〜。でも、本当に災害が起きた時のことを考えると、命を守るために大切な備えだね。

（山本）寝ているときが一番無防備だしね…、いつ起こるかわからない災害への備えて、そういうことなのかもしれないね。私も地震ですごく揺れたとき、とっさに棚の取っ手に箸を入れて扉が開かないように対応したんだけど…、間に合わなかった棚の食器は見事に割れ砕けて…、床は破片が散らばっていたな〜。避難する時は、靴も重要だね。

（権藤）とっさに、箸で対応するなんてすごいね！寝る時には、枕元に箸も必要かもしれないね。

（天生目）いやいや、枕元に箸はいらないと思うよ。

被災地医療修学ツアーは、いかがでしたか？

（権藤）南三陸町や女川町など、被災した地域の今と薬剤師の活動について学ばせていただきました。せっかくの経験だから、ツアー参加前に少し調べていたのですが…、当時の被害の大きさに驚きました。TVで見た印象と随分違いました。津波が押し寄せてきた水位なんかも、実際に目の当たりにするとTVで見る印象なんかとは全く違って…。

（山本）そうだね、視界というか…、実際に見ることで感じられる風景があるんだと思う。震災直後は、TVで映像を見る機会が多かったけど、最近は余り報道されなくなった気がするね…。5年以上経過しているから、復興も進んで街もほとんど元に戻っているかなと思っていただけど…、実際は、場所によって随分違いがあることに驚きました。

（丸山）私は、当時の薬剤師や医療者の活動について、直接お話を伺うことができたのが印象的でした。その景色を見ながら当時の状況を聞くことで、心のどこかで「遠い場所の物語」のような気がしていたことが、「すごく鮮明なもの」に変わった気がします。ツアーの途中からは、「もし、自分だったら対応できたの？」って常に自問自答しながらお話を伺っていました。



権藤 秀蔵（5年）
筑陽学園高等学校出身（福岡）



丸山 裕代（5年）
清水東高等学校出身（静岡）



山本 雪絵（5年）
小松川高等学校出身（東京）



天生目 恭輔（5年）
富里高等学校出身（千葉）

（天生目）リアリティ…、そこにあるものを感じることができたんだね。僕は、今回のツアーには参加できなかったけど、みんな話を聞いて、災害時の医療者の活動に興味が出てきたな〜。ニュースでは被害状況ばかりで、医療者の活動についてあまり触れられていなかった気がするから…。

（丸山）お話を伺った方々は、災害時も迅速に行動されていたようにけど…、万が一、有事の際に自分たちにも同じことができるのかな？

（権藤）確かに、災害時の対応は重要だね…。でも、災害が起きると「災害によって発生する医療」もあるけど、「元々、そこにある医療」も必要だから、今まで行なっていることを、今まで通り継続することの重要性を忘れてはいけないと思うよ。

（山本）被災地で災害対策を行う人だけではなく、日常を守る人たちも大事。被災地での活動って、どうしても「災害によって発生した健康問題への対応」ってイメージが強いけど、そこで生活している方々は、被災前から病気を持っていたり…、そういう方々の健康を支えるってこともすごく大事なんだけど、やっぱり被災地では物資の不足を含め、十分な環境が整っていないから…。

（天生目）なるほど、確かにそうだね！ふだん当たり前に行なっている薬剤師の仕事…自動化されて簡便になったことも多いけど、どんな環境でも「当たり前」にできるってことがすごく大事なんだね。特別なスキルがなくても…、今やっていることを、単なる作業で終わらせず、いつも、どこでも同じことができる「備え」を意識していくことが大事なんだね。

（山本）「自分にできること」を知ることでも大切なね！でも…、いつ起きるかわからないものに対する備え…、お金や人といった資源や十分な環境がいつも用意されているわけじゃないし…、適切な備えて難しいな〜。

（権藤）過去の経験は参考になる部分はあるけど、地域によってハードやソフトに違いがあるから、そのまま当てはめることはできないと思う。大事なのは、その地域を知る人たちが自ら考え、その地域に合うシステムを構築することだと思う。

（山本）なるほど〜、家族、学校、友達…、将来、どこかの地域で薬剤師として働くときには、その地域の方々と、とにかく話し合うことから「備え」は始まるんだね！

最後に一言お願いします。

（権藤）授業やツアーに参加することで、感じる「何か」があると思います。これから、「自分たちができること、すべきこと」について改めて考える良い機会になりました。

（山本）そうだね…。実務実習に追われて、日々をこなすことに夢中で、目の前のことしか考えてなかったことに気付かされました。専門職としてすべきことを考える必要があるね。

（丸山）極めて低い確率で、いつ起こるかわからないものへの備え…、難しいけど、経験した方々のお話、残っている記録から、今後の備えを検討することはできるはずだと思う。みんなで話し合い、みんなで考えることが大切だね。

（天生目）そうすると、自分の「感性」に働きかけること、リアリティを感じるということが重要と言えるね。今回は、ツアーに参加したいな〜。

（権藤）そうだね、ツアーに限らず「感性」に働きかける体験は、これからきっと役に立つことだと思う。残りの大学生活やこの先まで活かせるようにこの経験を生かして行きましょう！